

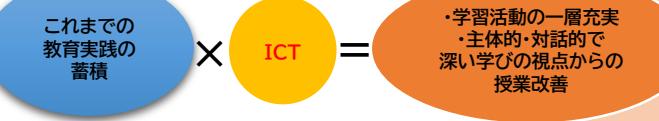
人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

多様な人との関わりを大切に、個人の自立を促し、社会の一員として自覚を養う教育

学びや育ちの連続性と社会との連携を強化し、豊かな人間性を育む

一人一人が主体的に学び、個性を伸ばし、可能性を広げることを可能とする教育

いちかわGIGAスクール構想では、「一人一台端末」と「高速大容量の通信ネットワーク」を整えることで、**学びの個別最適化**や**STEAM教育の充実**を図り、市川市の教育理念である「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」を推進します。いちかわGIGAスクール構想実現にあたっては、**ICTを系統的・計画的に活用するためのカリキュラム**を作成し、子どもたちに必要な資質能力をホップ・ステップ・ジャンプと段階的に育成します。これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、子どもたちや先生方の力を最大限に引き出します。



一人一台端末で授業はこう変わります！

「一人一台端末」ではない環境

一斉学習	個別学習	協働学習
教師は電子黒板等を用いて説明し、興味関心意欲を高めることはできるが、子ども一人一人の反応を把握することはできない。	全員が同時に同じ内容しか学習することができない。(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)	グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい。(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に)

「一人一台端末」の環境

一斉学習	個別学習	協働学習
教師は授業中でも子ども一人一人の反応を把握できるので、子どもの反応を踏まえたきめ細やかな指導等、双方向型の授業展開が可能になります。	子どもそれぞれが別々の学習ができ、学習履歴が自動で記録されるので、一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になります。	一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集でき各自の考えを即時に共有し共同編集ができます。全ての子どもが情報編集を経験したり多様な意見に触れたりできます。

校務や研修にも活用され働き方改革も促進されます！

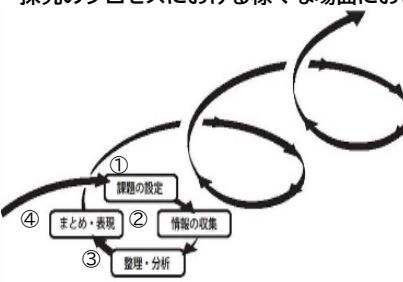
- ・ノートを集めなくても教師用端末で学びを確認できます。
- ・ワークシートを印刷しなくても、タブレットで共有できます。
- ・クラウドで保存したデータを教職員間で共有したり自動採点機能を活用したりして校務の効率化を図ることができます。



ジャンプ 教科の学びをつなぐ。社会課題等の解決や一人一人の夢の実現に生かす。 探究的な学び～地域や社会の課題解決のツールとして～

ICTを含む様々なツールを駆使し、各教科等での学びをつなぎ探究する教育(STEAM教育)

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる。



①課題設定	実社会の状況に関わる課題、進路や教科横断的な課題などを設定
②情報収集	文書検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等
③整理・分析	統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析
④まとめ・表現	論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

例えば、市川市のみこしをテーマとした学習なら…

情報収集の場面で…
・地域のみこしの伝統を守る人に、国語科で学習したインタビューの仕方を活かして、オンラインでインタビューをする。

整理分析の場面で…
・「地域のみこしについて知っていることはあるか」について街頭インタビューをする。社会科学の学習や学習支援ソフトを生かし、その結果からみこしの文化への関心度を分析する。

まとめ・表現の場面で…
・みこしについて学習したことを、国語科の学習を生かし、これまで学習でお世話になった地域の方や全校生徒へ、パワーポイントを使用して発信する。



ステップ 教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。 授業改善～学びを深めるためのツールとして～

例えば…

国語	算数・数学	社会	理科	外国語
書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる。例えば、ワードのコメント機能で助言し合ったり校閲機能で推敲し合ったりして、データを共有する。	関数や図形などの変化の様子を可視化して繰り返し試行錯誤する。例えば、統計処理ソフトを活用し、分析・考察に適した図や表、グラフを作成する。	国内外のデータを加工し可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する。例えば、各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る。	観察・実験を行い、動画等を使って深く分析する。例えば、レポートやプレゼン資料等にグラフや写真を挿入するなどして一人一人が主体的に作成する。	姉妹都市や市内高校・大学と連携し、子どもたちの発信力を高める。例えば、オンラインコンテンツを使用し、アウトプットの質を高める。

ホップ “すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 使える。 一人一台端末 ～とにかく使ってみよう～

検索サイトを活用した調べ学習	文章やプレゼンの作成	一斉学習の場面での活用	学習状況に応じた個別学習	“失敗”からも学ぶ情報モラル	いつでもどこでも学べる
情報を検索し、新聞記事や動画等を収集・整理する。子どもたちが自身がアクセスした情報の真偽を確認・判断する。	ワードやパワーポイントで自分自身の考えをまとめ共有する。リアルタイムで考えを共有しながら学び合う。	音声や映像等、イメージがもちやすくなるデジタル教材やデジタル教科書を提示する。個々の反応や考えを即時に把握し、双方向に授業を進める。	デジタル教材を活用し学習進捗状況を可視化する。特別な支援を必要とする様々な特徴を持った子どもたちに対してきめ細やかな対応を行う。	端末を積極的に活用する中で出てくる課題をもとに端末の使い方について話し合い、実感を伴った情報モラルを育成する。	臨時休業中等、学校に登校できない時に、自宅等からオンライン学習をすることができる。家庭学習として、ドリル学習を行うことができる。

ベース いちかわGIGAスクール構想実現のための環境整備

一人一台端末 高速大容量の通信ネットワーク	Office 365 education W X T S 個人の思考ツールや協働学習のツールとして活用できます。	学習支援ソフト 【授業支援コンテンツ】 ・児童生徒が画面を共有して協働学習ができる。 ・教材配付・回収ができる。 ・授業中でも一人一人の反応を把握できる。 【新学習指導要領に対応のドリルコンテンツ】 ・場所にとらわれず、毎日繰り返し学習ができる。 ・学習履歴が残るので、苦手なものを中心に学習できる。
ICTを系統的・計画的に活用するためのカリキュラム		
GIGAスクール環境整備計画		